

ライジング・サン・ロックフェスティバルで行われている ボランティア活動とそれに関わる NPO 団体に関する考察

北海道大学大学院 環境科学院
環境起学専攻 実践環境科学コース
川村稜

環境保全を目的とした、特定非営利活動法人(NPO 法人)によるボランティア活動が良く行われている。文部科学省や厚生労働省、経済産業省により、学士力・職業的発展に関わる諸能力・就職基礎力・社会人基礎力などの基礎的・汎用的能力が提唱され(文部科学省キャリア教育・職業教育特別部会第7回, 2009)、ボランティア活動後に、参加者にアンケートを実施することにより、ボランティア活動により社会人基礎力等が身に付いたという事例報告がある(花田ら, 2012 等)。しかしながら、それらは、ボランティア活動全体を通じた参加者による自己評価に基づくものであり、具体的にどのような場面でそれらの能力を身につける可能性があるかを論じた研究ではない。

本研究では上記の可能性を明らかにするため、北海道石狩市で行われた「RISING SUN ROCK FESTIVAL 2015」(2015 年 8 月 14 日~8 月 16 日実施、以後 RSR と略す)において、NPO 法人 ezorock が行っている環境対策ボランティアを対象に調査を実施した。RSR は 2 泊 3 日で行われ、2015 年総入場者数が 65000 人の大型音楽フェスティバルであり、このボランティアは、一般大学生を中心として、延べ約 500 人日が参加する、15 年間毎年行われている大規模かつ組織的なものである。本研究では、(1) ボランティア活動のなかで、参加者がどのような経験・能力を得られる場面があるか、(2) ezorock はそれらをどのように提供しているか、ということ明らかにするために、以下の参与観察、聞き取り調査、およびアンケートを実施した。参与観察は RSR が行われた3日間、ボランティア参加者延べ 23 人に対する聞き取り調査は RSR が行われた3日間および事後2日間、ボランティア参加者約 140 人に対するアンケート調査は RSR 事前説明会と RSR 活動後に2回実施した。また、RSR に参加したボランティアが参加する、ezorock の会議(計 7 回)も参与観察した。

参与観察で得られた事例 23 件に併せて、期間中や事後の聞き取り調査の事例 66 件を組み合わせ考察することにより、いくつかの事例にまとめた。その際に、それらの事例を、「主体(受動的・主体的な私、私たち、来場者)」と「気づき」「判断」「行動」の組み合わせた「ボランティアの対象・行動意識表」に当てはめ、事例を分析することで、個々の事例を整理するとともに、既存の基礎的・汎用的能力を得る機会になっているかを考察した。例えば、多くの事例は社会人基礎力で言う「主体性」や「柔軟性」、「傾聴力」、「発信力」を得る経験(場面)となっていた一方、アンケートから、参加者の自己認識としては、総合的な能力である「課題発見力」「創造力」が身に付いたという結果となった。おそらく、前者は個々の場面で経験するものである一方、後者はそれらの経験の積み重ねを経て自己認識として得られたものだと思われる。

また、ezorock では活動前の事前作り込み、活動後の振り返り、会議の進め方や積極的に参加してもらう工夫が数多くなされ、それらがボランティアの満足度を高め、参加者がこれらの能力を確実に得られる仕組みを提供している。